

今月のあかね先生

にじいろ コラム Part 6

『発表会ピアノ曲集 にじいろのおくりもの』シリーズに連弾編が登場します！

『にじいろのおくりもの』1巻が発売されてから約1年3か月。おかげさまで4巻まで刊行することができ、担当(ゆ)は感謝の気持ちでいっぱいです。『にじいろのおくりもの』1～4巻は、ソロ曲がメインですが、各巻末に連弾曲を数曲収録しています。曲集を制作していく中で、素敵な連弾曲にたくさん出会いました。発表会で連弾を取り入れている先生方は、ソロの選曲とはまた違って、ペア同士のモチベーションが上がるような曲を探すことに苦労されていらっしゃるのではないのでしょうか。そのような先生方に「ぜひご紹介したい！」という曲を収録した『にじいろのおくりもの 連弾編』(全2巻)がこのたび登場いたします。連弾編では、クラシック曲にスポットを当てて、発表会本番まで、生徒さん同士と一緒に楽しく取り組んでもらえるような4手連弾曲をあかね先生が厳選！1巻は導入から初級程度、2巻は初級から中級程度のレベルで、生徒さん同士で弾ける曲を収録しています。古典から近現代まで、さまざまな時代や国の目新しい曲が入っており、発表会の選曲に新しい風を吹き込むラインナップ。新しい『にじいろのおくりもの 連弾編』、お手に取っていただけましたら幸いです。

今月のセミナースケジュール

11/19(月)：[滋賀県/草津] ロマン楽器 草津本店
「子どもが飽きない『リズム』のレッスン」<リズム・セミナー/導入編>



11月中旬
連弾編 発売！！



フィギュアスケートに 恋して…

初めまして！先月号からおんがく通信のデザインを担当している(よ)です。私はフィギュアスケートを観るのも滑るのも大好き。2006年トリノ五輪で衝撃を受け、生観戦に目覚めてしまいました。少しずつルールを覚え、愛好家として成長しています(毎年のルール変更にはついていけません)。2007年頃から思い余って自分でもスケートを習い始め、絶賛奮闘中(欲しいものは身体の軸…)です。

さて、いよいよ始まったフィギュアスケートシーズン！プログラムの選曲と振り付けは、選手の個性を活かせるかどうかの重要なポイントで、その年の成績を左右しかねない大切な要素です。例えば、滑りが伸びる繊細なスケートをする選手は流れるような美しい曲が、グイグイと押していくタイプの選手はタンゴのような力強い曲が似合います。かと言って、毎年同じような曲でばかり滑っていても新鮮さに欠け、表現力の幅も狭くなってしまいます。オフリンクでは明るい選手が意外に重めの曲が似合っていて驚くこともあったり、選手がどんな選曲をするのか毎年とても楽しみです。

試合で観客を乗せられるような曲は、会場の雰囲気味方に出来ます。そんなプログラムでは選手と観客が一体になってヒートアップしていく…独特の空気感が味わえるのも生観戦の醍醐味です！曲が被ってしまうこともよくあり、どうやら滑りやすい曲というものがあるようです。「カルメン」「白鳥の湖」「オペラ座の怪人」「ロミオとジュリエット」「アランプエ協奏曲」など例を挙げればキリがないですが、必ず毎年誰かが滑っています。同じ選曲でも、選手の個性によって全く違う印象になるのも面白い。曲に合わせた衣装を見るのも楽しみのひとつです♪(よ)

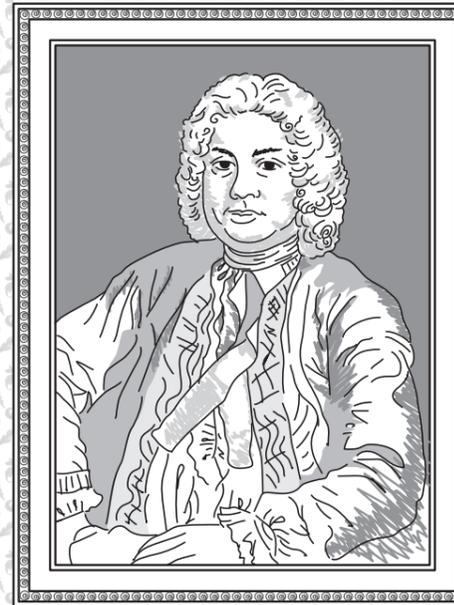


今日は何の日？

11月10日はクーブランの誕生日！

Anniversary 350th

今年がクーブラン生誕 350年



フランソワ・クーブラン(大クーブラン)
1668.11.10-1733.9.11

今年ドビュッシー没後100年であると同時に、フランソワ・クーブラン生誕350年のアニバーサリーイヤーでもあります。350年前…想像してクラクラしている担当(か)。日本では江戸時代の初期にあたるこの頃、フランスでは太陽王ルイ14世の治世のもと、ヴェルサイユ宮殿の落成に代表されるロココの華やかな文化が花開いていました。楽器も現代とは大きく異なり、この時代の鍵盤楽器といえばオルガン、もしくは華麗な装飾を施されたクラヴサン(チェンバロ)で、フランソワ・クーブランの作品を代表するものクラヴサン曲です。

フランソワ・クーブラン=大クーブランは、フランスの高名な音楽家の一族に生まれました。伯父ルイはセーヌ近郊からパリのサン＝ジェルヴェ教会に招かれるほどのオルガンの名手かつ作曲家で、以降、一族は100年以上にわたって、代々この教会のオルガニストを務めます。大クーブランはルイの後を継いだ父シャルルを間近に見る事で、徐々にその才能を開花させました。父シャルルは大クーブランが11歳になる年に亡くなってしまのですが、教会は、幼すぎる大クーブランが成長するまでの中継ぎをドラランドという当代随一の音楽家に依頼するほど、彼の才能を買っていたようです。

その後、大クーブランは1693年にルイ14世のヴェルサイユ宮殿に入ります。当時、王の威光を表すために音楽は欠かせず、折々に演奏されるそれら膨大な室内楽曲の作曲(一部が「王宮のコンセル」として残されています)の傍ら、王子や王女にクラヴサンを教えるもいました。一部現代にも通用する教本「クラヴサン奏法」はこの経験から生まれたのでしょうか。

そして、クラヴサン曲を語らずして大クーブランは語れません。200曲以上にのぼる小品は、27の「オールドル(まとまり)」にまとめられ、各オールドルは数曲から10数曲で構成されています。鋭い観察眼で自然を描写したり、人物を風刺したりするような曲が多く、魅力的ではあるものの不可思議なタイトルがつけられているのが特徴です。まるで画家が風景画や肖像画を描くかのように作曲されたクラヴサン曲の数々。「オールドル」という言葉には「部屋」という意味もありますので、絵画を小部屋に並べて鑑賞しているイメージなのかもしれませんね。曲のタイトルのほとんどが謎めいていますが、具体的な人物が判るものもあるようですよ！(か)

Music Quiz

Q ドニゼッティが2週間ほどで完成させたオペラは何でしょうか？

- ①セヴィリアの理髪師
- ②ノルマ
- ③愛の妙薬

答え：③愛の妙薬
選択肢に挙げられているオペラの作曲家は全員イタリア人。《セヴィリアの理髪師》はドニゼッティと同時代に活躍したロッシーニ、《ノルマ》はベッリーニのオペラです。ちなみに、《セヴィリアの理髪師》も制作期間が1か月に満たないほどだったとか！短い制作期間で名作を生み出すことができるなんて、本当におどろきですね。

発売中
書籍

ブルー・アイランド先生の音楽教室
バレエ音楽をききましょう！



★テレビやコンサートで大人気！
青島(ブルー・アイランド)先生による音楽教室の第2弾は、バレエ音楽について。これだけは観ておきたい(聴いておきたい)バレエ作品について、先生独自の世界観を持ったイラストとあわせて、楽しく解説します。
★Q&A形式で、各作品について分かりやすく解説します。
★主な曲を抜粋し収録したCD付

文&絵:青島広志

■B5判/96頁/4C/本体価格1,800円(税別)/CD付